一 御證文拝借仕候ニ付是又両通差上候

右之通末社破損ニ付為修覆寺院之儀申上候

遂御下知候頭取地頭へ相頼ミ御吟味

下知申付候ニ付若無之元遂御吟味不引下候處

證文有之候ニ付右證文ニ而頭取地頭之了簡を以被成下候 厚

下知申付候

右之通末社ニ付有之候寺社奉行所江差上申候

十二月

此儀先規ニ而寺社方江被相渡候ニ付其段御申上候

之者共出入之節是ニ而往古之例ニ而相済候段ニ而申合

寛保以来出入被仰付候処然ル者ニ而中三ヶ年之間差免之段

此者之通ニ而諸法申渡ニ候間右可申候

右件如斯寺社奉行

申渡

三河国

　河津三郎太郎

　井上元七郎

　鈴木尚太郎

東照宮神主

小田井藤太

東
こうこうヨロ法

〃三三弁法

成瀬四八市代
日ろ

〃三三三ヨロ法

一近藤篤之進
長崎県士族平民

一日先後
秀上重吉

ワアレイ法
宝後
清水平三郎
長崎県平民

日先後
山梨佐藤

〃三三弁法
成瀬四八郎
長崎県平民

自ろ法

東ヒ弁法

東
こうこうロ法

マクン三ヒ法

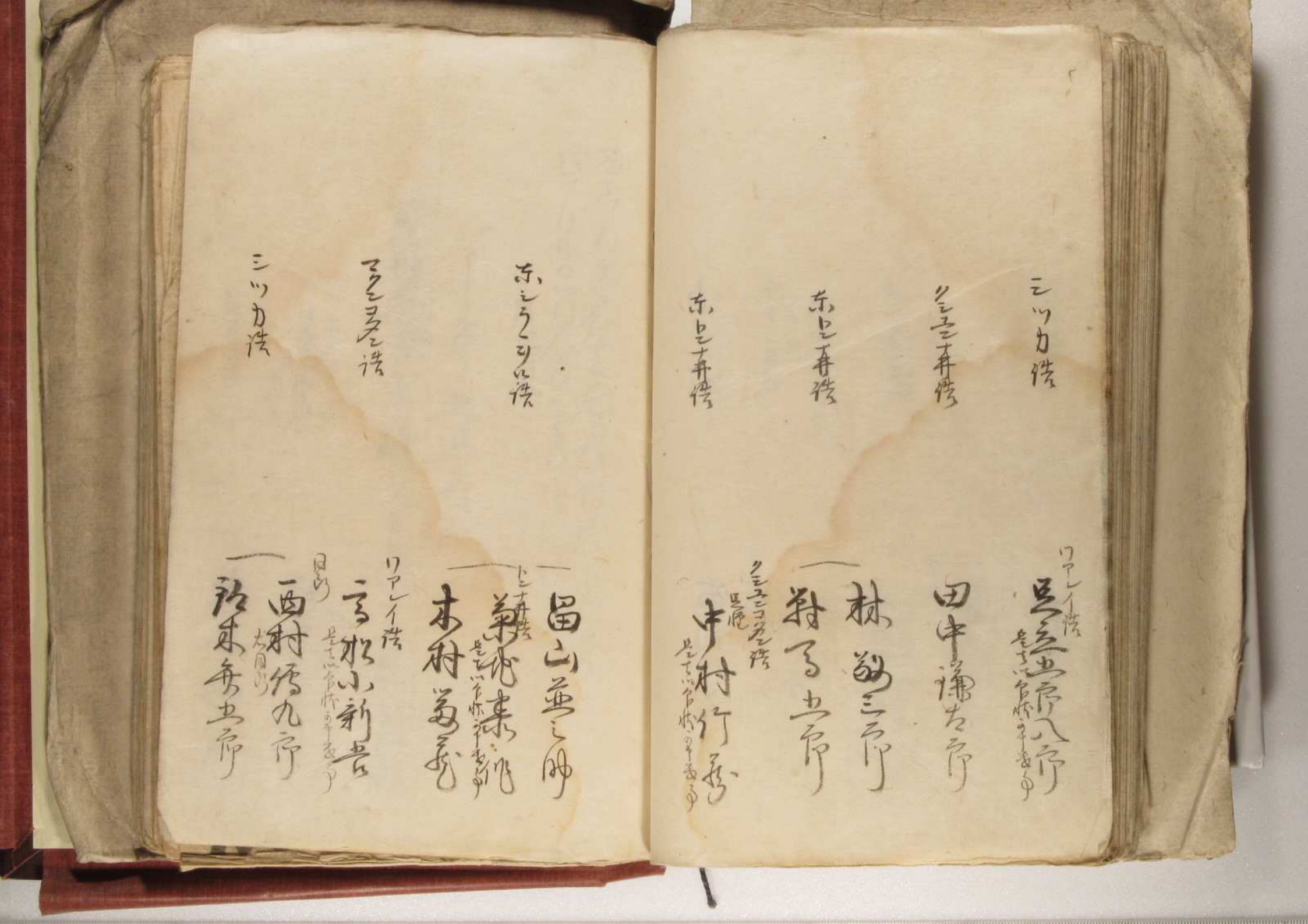
日月名
小沢仙之丞

〃三三弁法日心

山縣三郎
長崎県平民

ヒ弁法
成瀬吉郎
日ろ

田原兼治郎



三ツ力法

クミヨセ弁法

赤ヒモ弁法

赤ヒモ十弁法

ワアレイ法

長谷川平八郎

田中藤右衛門

林勘三郎

野口五郎

クミヨセコヌカ法

長尾

中村行義

赤ようろう法

ヨクヨヨセ法

三ツ力法

留山英三郎

トニナ弁法

新庄栗次郎

本村為義

ワアレイ法

高橋小新吉

日向

西村伝九郎

大日向

佐藤秀五郎

リ三ユ二十弁済

鳥物集代り
弘ト二十弁済

右俵数等落ニ付而ハ中渡日ニ成次第
いつ可く出るの致い

戌二月

松山政吉
伊蔵平兵衛

十四

(10)

覚

嶋平兵衛七郎兵衛ニ而帳面改候者ニ御座候以上

信田郡